

信濃川まで歩ける 長岡市の中心市街地活性化

中心市街地活性化
検討協議会視察
新潟県長岡市
10月28・29日

中心市街地活性化検討協議会では10月28・29日に、新潟県長岡市で中心市街地活性化についての施策を視察。栗山香代子議員が参加しました。

長岡市は新潟県の中央、新潟平野の南端に位置し、2市7町2村が合併し、面積890km²に28万人です。戊辰戦争・太平洋戦争の二度の戦火に遇いながら、復興を遂げた所です。戦災復興のために始まった信濃川での長岡花火は、毎年8月2・3日の2日間2万発、80〜90万人が訪れます。米百俵の故事でも有名。

厚木市議会の中心市街地活性化検討協議会は昨年10月に設置され、今回が初めての視察です。1日目は長岡市における中心市街地活性化施策、2日目は子育ての駅「てくてく」について話を聞き、現地を見てきました。

市民協働型のシティホール

長岡市の中心市街地は、江戸時代の長岡城の本丸があったところ。現在はJR長岡駅があり、面積90・5ha。平成20年11月に「長岡市中心市街地活性化基本計画」を策定し、居住者の減少によるまちなかの空洞化、事業者数の減少、活力の低下、買物客も減少等の現状を踏まえ、都市機能の集積と空き店舗の活用をめざし、コンパクトなまちづくりに向けてスタートしました。



ガラス張りのアオーレ長岡。県産材の市松模様。

基本理念を「長岡広域市民の「ハレ」の場となる新しい長岡の顔づくり」として、◆米

百俵の精神をはぐくむ「学び」と「交流」の舞台。◇快適で安心して暮らせる居住の場。◇魅力ある「まちなか」の就業の場。を掲げてまちなかの回帰の促進、「住む人」「来る人」「働く人」の増加を目指しています。市長は元建設省の職員で4期目、中心市街地について「商業活性化をずるんじやないんだ。人が集まれば商業はついてくる」との持論のもとに、商業地域は信濃川を挟んで少し離れた地域に移し、駅周辺に市役所機能を分散移転させ、シティホール「アオーレ長岡」を建設しました。

「アオーレ長岡」は壁面がガラス張り、県産材を使って市松模様をつくり、市役所、5000人収容のアリーナ、全天候型の広場「ナカドマ」、ホワイエ、市民交流ホール、シアター、それに市議会の議場もあります。ナカドマやホール等の使用料は、営利目的でなければ無料だそうで、ナカドマやホワイエは営利目的でも、当たり50円と格安。

議場が1階の角で、通る人から良く見えます。議会傍聴者が激増したそうですが、感想を聞くと議会の審議内容等についてはあまりないとか。せっかくなのでガラス張りですが、議員からは「集中できない」「太陽光がまぶしい」などの声もあり、ブラインドを閉めることも多いそうです。

事業費132億円のうち、財源はまちづくり交付金が30億、合併特例債で54億、庁舎建設基金の取り崩し45億で、一般財源は3億円とのこと。

空き店舗利用の再開発

まちなか型公共サービスの展開で再開発をしています。アオーレ長岡の他に「大手通中央東地区第一種市街地開発事業」として、住宅・店舗、大学・専門学校と連携しての「まちなかキャンパス長岡」、中越地震「長岡震災アーカイブセンター」きおくみらい」があります。

「大手通中央東地区第一種市街地再開発事業」として、店舗・高層住宅のビルに、子育て支援施設「子育ての駅」ちびっこ広場」があります。ここは1万冊超の絵本館、ファミリーサポートセンター事務局もあります。駅前広場整備事業のペDESTリアンデッキは、屋根・壁もある、雪国ならではの歩行者用施設です。

子育て支援の屋根付き公園

視察2日目は、信濃川に面した公園の中にある、「子育ての駅」てくてくへ。

長岡市では平成19年4月、教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設し子どもの施策を統合、23年4月には教育委員会に「子育て支援部」を設置しました。母子保健から青少年健全育成まで、子どもの成長に合わせた一貫した支援体制の充実に図っています。子ども家庭課には子育ての駅が4か所あり、「てくてく」「ぐんぐん」「ちびっこ広場」「すこやか」、子育て支援センターは34か所。保育士が常駐する「子育ての駅」は冬期の4ヶ月間子どもたちが遊べる場所が欲しいとの保護者の声を受けて、「保育士のいる屋根付き公園」との位置付けでできました。子育て支援と公園という縦割りを乗り越え、財源確保にも大きなメリットがあったそうです。「てくてく」の工事費4億800万円の財源とは、都市公園事業補助2億400万円、合併特例債1億9400万円、県貸付金1000万円、で、一般財源は7万円！！とは言っても半分近くは市の借金なわけで、今後は施設の老朽化にともなう維持管理費が増えていくでしょうし、将来負担はどうなるのでしょうか。

今週の活動から



第9回地域医療政策セミナーが東京都千代田区平河町の都市センターホテルで開かれました。全国自治体病院経営都市議会協議会主催。今回は長崎県済生会病院「全室個室の意味するもの」、高知大学医学部の「地域医療と自治体病院」の講演がありました。(左：釘丸久子議員、右：栗山香代子議員)

説明を聞き、施設を見ている間、ずっと利用者が増え続け、遊んでいます。天気の良い日でしたが、外で遊ぶ母子がいらない！立派な施設をつくるのはいいけれど、本当にそれだけのだろうか。子どもを育てるといふ事は、人間を育てるといふ事。危険のない出来合いの環境をつくることは、たくましい人間を育てることになるのだろうか。